

厚沢部町地球温暖化対策実行計画

(区域施策編)

【令和 2 年度実績報告書】

令和 5 年 1 2 月

厚沢部町

目次

第1章	計画の概要	1
1.	計画の目的	1
2.	対象となる温室効果ガス.....	1
3.	計画の期間	1
第2章	令和2年度の二酸化炭素排出量実績	2
1.	二酸化炭素の部門・分野別排出量.....	2
2.	二酸化炭素排出量の年度別実績及び推移.....	2
3.	二酸化炭素排出量の比較.....	3
第3章	二酸化炭素排出量の削減方針	4
1.	将来ビジョン.....	4
2.	今後の施策方針	4
施策①	地域新電力会社と協力した再生可能エネルギーの最大限導入	4
施策②	売電益を活用した農業振興・林業振興策	4
施策③	熱やエネルギーの有効活用による新技術導入支援	5
施策④	快適な省エネライフスタイルの導入	5
施策⑤	自然資本の活用	5
施策⑥	環境意識の醸成	5

第1章 計画の概要

1. 計画の目的

本計画は厚沢部町における温室効果ガス排出量の削減等を行うための施策に関する事項を定めるものであり、それらの取り組みが我が国における地球温暖化対策に貢献すると同時に地域が抱える様々な課題の解決、地域経済循環や地方創生の実現に寄与することを目的とした計画です。

2. 対象となる温室効果ガス

統計データから推計可能で、排出量の最も多い二酸化炭素（CO₂）を対象とします。

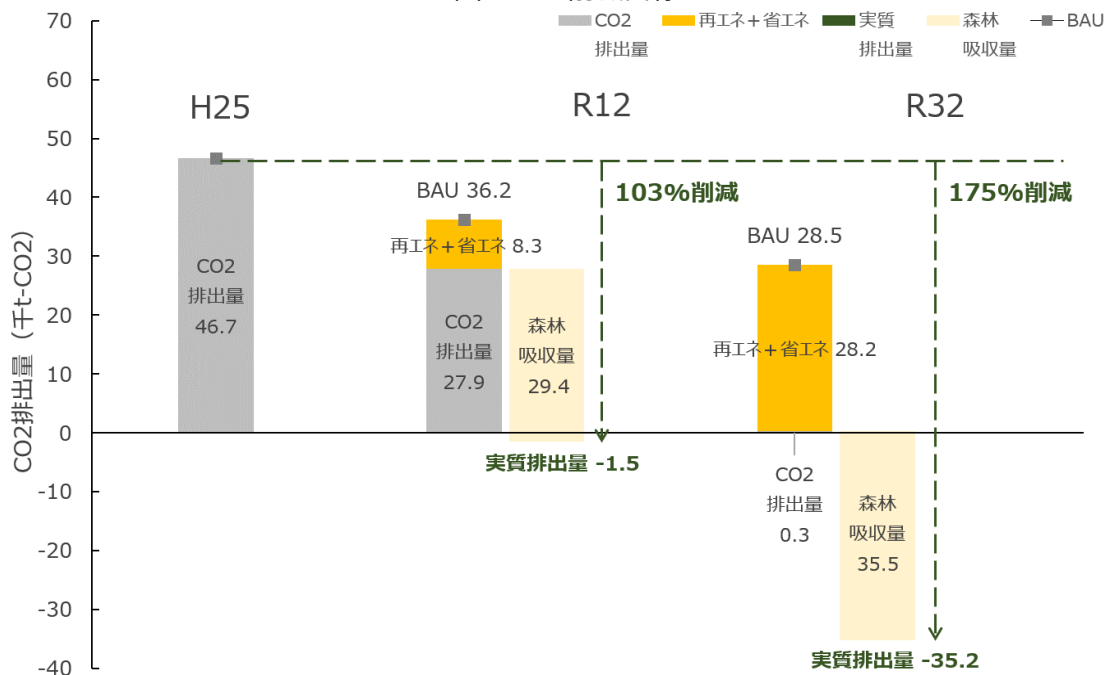
3. 計画の期間

本計画では、令和 32 年度を長期目標として見据えた上で、基準年度を平成 25 年度、目標年度を令和 12 年度とした目標策定を行っており、令和 9 年度に計画を見直します。なお、削減目標は下図のとおり設定しています。

表 1 計画期間と年度別削減率

年度別削減目標	基準年度	計画見直し年度	目標年度	長期目標年度
	平成25年度 2013年度	令和9年度 2027年度	令和12年度 2030年度	令和32年度 2050年度
CO2削減率	—	68%	103%	175%

図 1 削減目標

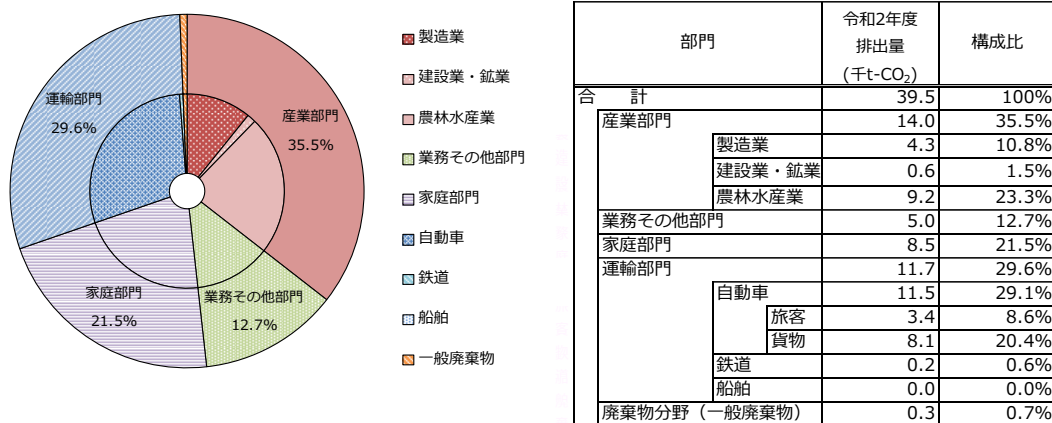


第2章 令和2年度の二酸化炭素排出量実績

1. 二酸化炭素の部門・分野別排出量

令和2年度における二酸化炭素排出量の部門・分野別排出量は下図のとおりで、当町での二酸化炭素排出量は39.5千t-CO₂となっています。

図2 令和2年度二酸化炭素排出量の構成比



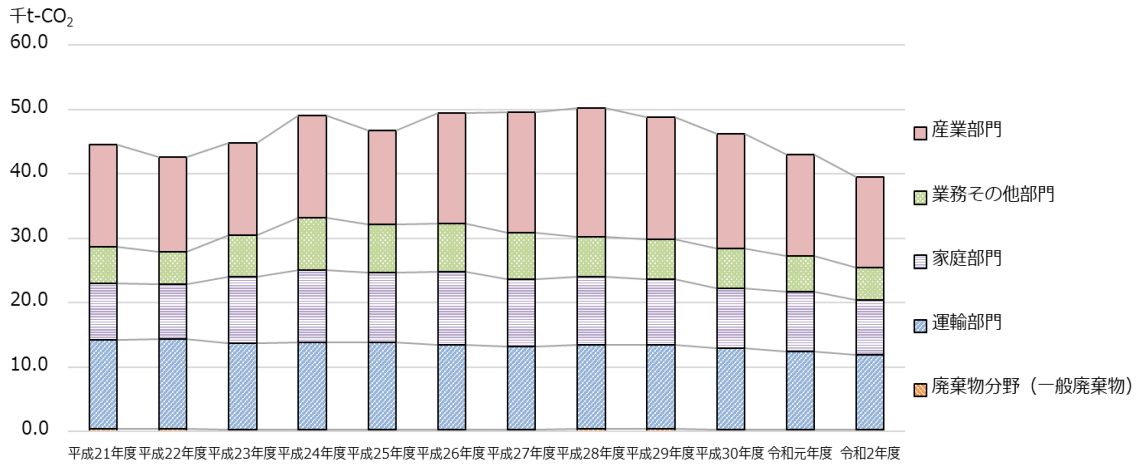
2. 二酸化炭素排出量の年度別実績及び推移

平成21年度から令和2年度までの年度別実績は下表のとおりで、令和2年度は基準年度である平成25年度の46.7千t-CO₂に比べ、約7.2千t-CO₂（基準年度比15.4%）の削減となっています。

表2 二酸化炭素排出量の年度別実績

部門・分野	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	排出量 (千t-CO ₂)	排出量 (千t-CO ₂)	排出量 (千t-CO ₂)	排出量 (千t-CO ₂)	排出量 (千t-CO ₂)	排出量 (千t-CO ₂)	排出量 (千t-CO ₂)	排出量 (千t-CO ₂)	排出量 (千t-CO ₂)	排出量 (千t-CO ₂)	排出量 (千t-CO ₂)	排出量 (千t-CO ₂)
合 計	44.5	42.6	44.8	49.0	46.7	49.4	49.6	50.2	48.8	46.2	43.0	39.5
産業部門	15.8	14.7	14.3	15.9	14.6	17.2	18.8	19.9	18.9	17.7	15.7	14.0
製造業	5.5	5.2	5.2	6.6	6.4	4.8	5.9	6.1	6.4	6.2	4.2	4.3
建設業・鉱業	0.6	0.6	0.8	0.9	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6
農林水産業	9.8	8.9	8.3	8.4	7.4	11.6	12.2	13.1	11.8	10.8	10.9	9.2
業務その他部門	5.7	5.1	6.5	8.0	7.5	7.5	7.2	6.2	6.2	6.3	5.6	5.0
家庭部門	8.8	8.5	10.3	11.3	10.8	11.4	10.4	10.6	10.2	9.2	9.3	8.5
運輸部門	13.8	14.0	13.4	13.5	13.5	13.1	12.9	13.0	13.0	12.7	12.2	11.7
自動車	13.5	13.7	13.1	13.1	13.1	12.8	12.6	12.7	12.7	12.5	11.9	11.5
旅客	5.0	5.0	4.9	4.9	4.7	4.4	4.3	4.3	4.2	4.1	3.9	3.4
貨物	8.5	8.7	8.2	8.2	8.4	8.4	8.3	8.4	8.5	8.4	8.0	8.1
鉄道	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2
船舶	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
廃棄物分野（一般廃棄物）	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.4	0.2	0.2	0.3

図 3 二酸化炭素排出量の推移



3. 二酸化炭素排出量の比較

令和2年度は下表のとおり基準年度比で農林水産業を除き二酸化炭素排出量が減少となっており、これは人口減少とそれに伴う経済規模の縮小に起因するものと推測されます。しかしながら、令和12年までにカーボンニュートラルを達成する本計画の目標には将来的な人口減少を加味しても程遠い状況であり、より一層の取り組みが求められています。

表 3 二酸化炭素排出量の削減目標

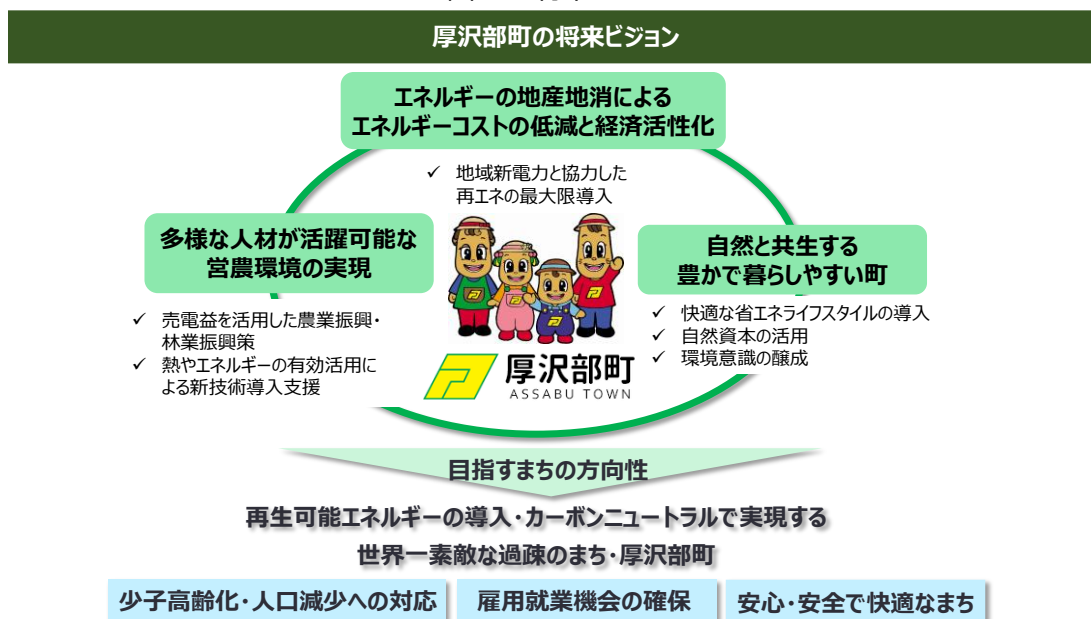
部門・分野	基準年 H25年度	R2（2020）年度		R12（2030）年度目標		（参考）R32年度目標	
	排出量 （千t-CO ₂ ）	排出量 （千t/CO ₂ ）	H25年度比 削減率	排出量 （千t-CO ₂ ）	H25年度比 削減率	排出量 （千t-CO ₂ ）	H25年度比 削減率
実質排出量（＝排出量合計-吸収量合計）	46.7	39.5	15.4%	-1.5	103%	-35.2	175%
排出量合計	46.7	39.5	15.4%	27.9	40%	0.3	99%
産業部門	14.6	14.0	4.1%	8.7	40%	0.2	99%
製造業	6.4	4.3	32.8%	3.8	41%	0.0	100%
建設業・鉱業	0.8	0.6	25.0%	0.5	40%	0.0	100%
農林水産業	7.4	9.2	▲24.3%	4.5	40%	0.2	98%
業務その他部門	7.5	5.0	33.3%	3.9	48%	0.0	100%
家庭部門	10.8	8.5	21.3%	6.0	44%	0.0	100%
運輸部門	13.5	11.7	13.3%	9.1	32%	0.0	100%
自動車	13.1	11.5	12.2%	8.9	32%	0.0	100%
旅客	4.7	3.4	27.7%	3.4	28%	0.0	100%
貨物	8.4	8.1	3.6%	5.5	35%	0.0	100%
鉄道	0.3	0.2	33.3%	0.2	31%	0.0	100%
船舶	-	-	-	0.0	-	0.0	-
廃棄物分野（一般廃棄物）	0.3	0.3	0%	0.2	42%	0.1	70%
吸収量合計							
森林吸収量				-29.4		-35.5	

第3章 二酸化炭素排出量の削減方針

1. 将来ビジョン

本計画において「エネルギーの地産地消によるエネルギーコストの低減と経済活性化」「多様な人材が活躍可能な営農環境の実現」「自然と共生する豊かで暮らしやすい町」の3つをビジョンと位置付け、脱炭素の取り組みを通じた地域課題の解決や更なる魅力向上を目指していきます。

図 4 将来ビジョン



2. 今後の施策方針

施策① 地域新電力会社と協力した再生可能エネルギーの最大限導入

地域内に最大限再生可能エネルギーを設置し、発電した電気を町民に供給することを目的に、令和5年8月に地域新電力会社「(株)ハチャム」を設立しました。「(株)ハチャム」を通じてエネルギーの地域内循環を実現していくことで、地域全体の電気使用による二酸化炭素排出量を削減していきます。

施策② 売電益を活用した農業振興・林業振興策

(株)ハチャムの売電益を農作物ゼロカーボンブランド化の推進や栽培管理自動制御システムのような先端技術の導入費用に充てることで、農業及び林業の振興と同時に環境負荷の低減に努めていきます。

施策③ 熱やエネルギーの有効活用による新技術導入支援

太陽光発電や木質チップコジェネレーションシステムにより生成される熱やエネルギーをハウスや農地で効率的に活用することで、熱利用による作物栽培や VEMS^{※1} の導入を推進していきます。

施策④ 快適な省エネライフスタイルの導入

施設や住宅の ZEB 化・ZEH 化や公用車・民間車の EV・FCV 化を推進していくことで、業務部門や家庭部門の省エネ化、運輸部門におけるエコドライブの普及啓発を進めていきます。

施策⑤ 自然資本の活用

二酸化炭素の吸収源として大きな役割を担う森林を適切に維持管理しつつ、持続的な森林経営の確保や地元産木材を活用したバイオマス発電や 6 次産業化を推進していきます。また、J クレジット^{※2} の活用により地域外からの外貨獲得を目指していきます。

施策⑥ 環境意識の醸成

令和 5 年 3 月に中高生を対象に環境問題を考えるワークショップを実施し、環境意識の醸成を図りました。今後も年 1 回以上環境教育を実施し、若手世代を中心に行動変容を促すことで、一人一人がゼロカーボンアクション 30 を実践し、町全体の脱炭素化を推進していきます。

※1 VEMS (Village Energy Management System) :

農山漁村エネルギーマネジメントシステムのことで、再生可能エネルギーの活用や省エネを通じ、農林漁業のコスト削減や地域経済活性化を図る仕組み。

※2 (森林分野の) J クレジット :

適切な森林管理により削減された二酸化炭素排出量をクレジットとして国が認証すること。創出されたクレジットは企業等に売却し、企業等の二酸化炭素排出量をオフセットすることが可能。

図 5 ゼロカーボンアクション 30

ゼロカーボンアクション30（年間CO2削減量）		
アクション1 再エネ電気への切り替え  1,232kg / 人	アクション2 クールビズ・ウォームビズ  19kg / 人 冷房を1℃高く、暖房を1℃低く設定	アクション3 節電  エアコン26kg / 台 使用時間を1日1時間短くする
アクション4 節水  11kg / 世帯 水使用量を約2割削減	アクション5 省エネ家電の導入  冷蔵庫163kg / 世帯 約10年前のものから最新に買い替え	アクション6 宅配サービスをできるだけ一回で受け取る  7kg / 人 月6回の宅配をすべて1回で受取る
アクション7 消費エネルギーの見える化  59kg / 世帯 家庭の消費エネルギーを3%削減	アクション8 太陽光パネルの設置  1,275kg / 戸	アクション9 ZEH（ゼッチ）  1,275kg / 戸 戸建て住宅をZEHに変更
アクション10 省エネリフォーム窓や壁等の断熱リフォーム  断熱リフォーム142kg / 世帯 窓の断熱 47kg / 世帯	アクション11 蓄電池・蓄エネ給湯機の導入・設置  121kg / 人 ヒートポンプ式給湯器に置き換え	アクション12 暮らしに木を取り入れる  34kg / 戸 一般住宅を国産木材建てた場合
アクション13 分譲も賃貸も省エネ物件を選択  2,009kg / 世帯 ZEH・Mの集合住宅	アクション14 働き方の工夫  279kg / 人 通勤にかかる移動距離をゼロ	アクション15 スマートムーブ  都市内プライベート 10kg / 人 通勤時 243kg / 人 エコドライブ 148kg / 人 カーシェアリング 213kg / 人 バス・電車・自転車移動に置き換え
アクション16 ゼロカーボン・ドライブ  通常電力充電 242kg / 人 再エネ充電 467kg / 人 電気自動車を使用	アクション17 食事を食べ残さない  54kg / 人 家庭と外食の食品ロスがゼロ	アクション18 食材の買い物や保存等での食品ロス削減の工夫  54kg / 人 家庭と外食の食品ロスがゼロ
アクション19 旬の食材、地元の食材でつくった菜食を取り入れた健康な食生活  地産地消8kg / 人 旬の食材36kg / 人	アクション20 自宅でコンポスト  18kg / 世帯 生ごみをコンポストでたい肥化	アクション21 今持っている服を長く大切に着る  194kg / 人 衣服の購入量を1/4程度に
アクション22 長く着られる服をじっくり選ぶ  194kg / 人 衣服の購入量を1/4程度に	アクション23 環境に配慮した服を選ぶ  29kg / 人 年間10%をリサイクル素材に	アクション24 使い捨てプラスチックの使用をなるべく減らす。マイバッグ、マイボトル等を使う  マイボトルの活用4kg / 人 マイバッグの活用1kg / 人
アクション25 修理や補修をする  ホビー製品を長く使う113kg / 人 家電製品を長く使う45kg / 人 アクセサリを長く使う32kg / 人 家具を長く使う29kg / 人 購入を1/4程度に	アクション26 フリマ・シェアリング  40kg / 人 年間10%をフリマで購入	アクション27 ごみの分別処理  4kg / 人 容器包装プラスチックをリサイクル
アクション28 脱炭素型の製品・サービスの選択  0.03kg / 人 詰替え商品を購入	アクション29 個人のESG 投資  1kg / 人 脱炭素経営に取り組む企業への投資	アクション30 植林やごみ拾い等の活動  0.8kg / 本 木を1本植林

出典：環境省ゼロカーボンアクション 30 レポート 2021